

平成 21年5月27日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2008

課題番号：18202015

研究課題名（和文） 地図史料学の構築 - 前近代地図データ集積・公開のために -

研究課題名（英文） Maps as Historical Documents: Building Knowledge for the Purpose of Accumulating and Publicly Disseminating Data Concerning Maps Produced in Pre-Modern Japan

研究代表者

杉本 史子（SUGIMOTO FUMIKO）

所属機関・所属部局名・職名 東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号 10187669

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：史料学・地図・目録学・文化財科学・身分論・近世・日本史

1. 研究計画の概要

A) 地図史料学構築の基礎となる、原本調査を、諸分野の研究者・技術者共同で行い、日本において作成されてきた地図の基本的性格を追求する。B) 前近代地図についての所在情報を蓄積し、効果的な公開方式を検討する。

2. 研究の進捗状況

(1) 地図データ蓄積・公開：公開研究会において、研究・教育において有用な地図データのありかたについて意見交換をした東京大学・九州大学・茨城大学・京都府立大学において、刊行物（図録・自治体史・地図写真集）に収録された前近代地図情報および研究論文情報約1万件、国絵図史料群データ、絵図序・跋データ、公開画像データを蓄積し、その公開方法を検討した。東京大学史料編纂所所蔵近世近代出版図の詳細データを作成した。3に述べるように、蓄積したデータの一部について検索システムを構築したうえで公開した。

(2) 独自の原本調査の実施：これまで国宝などの美術作品で成果をあげてきた色料についての科学的調査（蛍光X線分析法・可視反射分光スペクトル測定法を、古地図に対し初めて実施した。古地図は日本画と共通する色料を使用して作成されており、古地図の基礎データであるのみならず、美術作品一般の基準資料ともなりえるものと考えられる。原本調査については、以下の報告書を作成した。『徳島・高知調査中間報告書』『山口県文書館所蔵絵図資料の彩色材料調査結果報告』『岡山大学附属図書館所蔵資料の彩色材料調査結果報告』『ライデン国立民族学博物館

「大日本諸国名産紙集」報告書（全データ）』杉本史子・村岡ゆかり・国木田明子・高島晶彦「シーボルトが収集した国絵図・出版図と和紙見本帳について - 蒐集と公開の十九世紀」（pp.45-79, 『東京大学史料編纂所研究紀要』19、2009年3月）

(3) 作成行為プロジェクト：作成技術者・社会学・認知論・歴史学などの立場から5回の研究会を開催した。

3. 現在までの達成度

当初の研究計画以上に進展している。

(理由)

(1) これまで主に歴史学・地理学において検討されてきた地図学に、文化財科学・科学史・美術史・作成技術者からなる文理融合・諸職掌共同の原本調査・研究の成果を導入し、a 内容・b 物的側面の両面からの分析を融合させた、新しい史料学の構築を検討し公表した。

3年間に8館の所蔵絵図について、独自の方法論に基づく原本調査（2参照）を実施し報告書を作成した。

成果の一部を『歴史学研究』841号・842号特集「世界のなかの近世絵図(1)(2)」(2008年6月・7月号)で、本共同研究メンバーの論文10本を公開し、共同研究の成果を学界に問うた。

公開シンポジウム「歴史の中の地図」シリーズ～を各年度開催し、歴史学・地理学・科学誌・社会学・文化人類学など諸分野にわたる議論を蓄積してきた。

(2) いまだ基礎データの整備されていない、前近代に作成された地図類についての所在情報を蓄積、一部公開し、諸分野からの地図

研究・教育活用のための共通データの基礎を作り出した。

2009年3月、東京大学史料編纂所ホームページにおいて、「古地図・絵図所在情報アンケートデータベース」の公開を開始した。

2で述べた諸データを蓄積した。

4. 今後の研究の推進方策

基盤研究(A)「『地図史料学の構築』の新展開 - 科学的調査・復元研究・データベース」(課題番号21242018、2009~2011)において、(1)独自の原本調査、(2)地図データの蓄積と効果的な公開方法の検討をひきつづき行っていくとともに、(3)国絵図復元プロジェクトを立ちあげ、学術的復元の検討を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

1. 杉本史子「近世地図論序説 身分秩序と主体・行為・モノ」『歴史学研究』841、pp.2-22、2008年、査読無

2. 吉田直人「可視反射分光スペクトル法による染料分析 近世絵図資料彩色調査への応用」『歴史学研究』841、p35-42、2008年、査読無、

3. 村岡ゆかり「肉眼観察から見た絵図 模写制作者の見地から」『歴史学研究』841、p43-49、2008年、査読無

4. 高島晶彦「表装技術から絵図を問い直す」『歴史学研究』841、p50-54、2008年、査読無

5. 早川泰弘「蛍光X線分析による地図資料の彩色材料調査」『歴史学研究』841、pp.29-34、2008年、査読無

[学会発表](計5件)

1. 杉森玲子「京都・六条寺内の成立と絵図」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2008年度公開研究集会「近世社会と地図作成」,東京大学、2008年7月11日

2. 小野寺淳「ライデン大学シーボルト国絵図について(1)志摩国絵図」第51回歴史地理学会大会、宮城大学、2008年5月18日、(歴史地理学50巻4号に要旨)

3. 鳴海邦匡「コンパスにみる近世日本の測

量術の画期」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史のなかの地図 地図-知の交差点」,2007年7月7日、東京都(東京大学)

4. 中村雄祐「認知の道具としての地図」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史のなかの地図 地図-知の交差点」,2007年7月7日、東京都(東京大学)

5. 杉本史子「構造体としての地図-国絵図」科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築」(代表:杉本史子)2007年度公開研究集会「歴史のなかの地図 地図-知の交差点」,2007年7月8日、東京都(東京大学)

[図書](計5件)

1. 杉本史子「史料学の試み-「モノとしての史料」を問い直す」,斎藤晃編集『テキストと人文学』人文書院2009年、p50-70

2. 上杉和央「宇治の景観認識の変遷について-平等院・茶を中心に-」,菱田哲郎編『南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究』(京都府立大学文学部歴史学科,2009.3)43-60頁

3. 杉本史子「房総の空間を描く」,『千葉県歴史通史編 近世2』,p655-684、2008年

4. 鳴海邦匡・大澤研一・小林茂責任編集『城下町大坂-絵図・地図からみた武士の姿-』大阪大学出版会、100頁、2008年

5. 鳴海邦匡『近世日本の地図と測量-村と「廻り検地」-』九州大学出版会、212頁、2007年

[その他]

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/collaboration/18202015.html>

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fumiko/kaken_index.html